

「黒田大権現と黒田社」

90



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)

り、直温の人間性を垣間見ることがができます。

黒田家と当地との関わりは、享保17(1732)年、黒田家初代直邦が、常陸国下館藩1万5千石から上野国沼田藩2万5千石に国替され、その所領の中に中渡・外記新田・水深・川口・葛梅・中妻の6村2千5百石が含まれていたことにあります。

その後、寛保2(1742)年2代目直純は、久留里藩3万石へ移封となり、藩政の基礎を築きました。そして、黒田氏は、明治維新に至るまで9代126年、藩主を務めました。



中渡49-1 稲荷神社
外記新田14 鷺神社

中渡の稲荷神社には黒田大権現の祠が、外記新田の鷺神社の社殿には小さな社の黒田社があります。

これらは、江戸時代後期の天明・寛政期(1781~1801)に、この地を治めた上総国久留里藩(君津市)の4代目藩主、黒田直温の善政を偲び、村民がまつったものと伝えられています。

久留里城誌には、「殿は天明の飢饉の際、救済に力を尽し領民に敬愛された」と記されてお



黒田大権現の石碑

紹介者 小沼 良市さん(旗井)